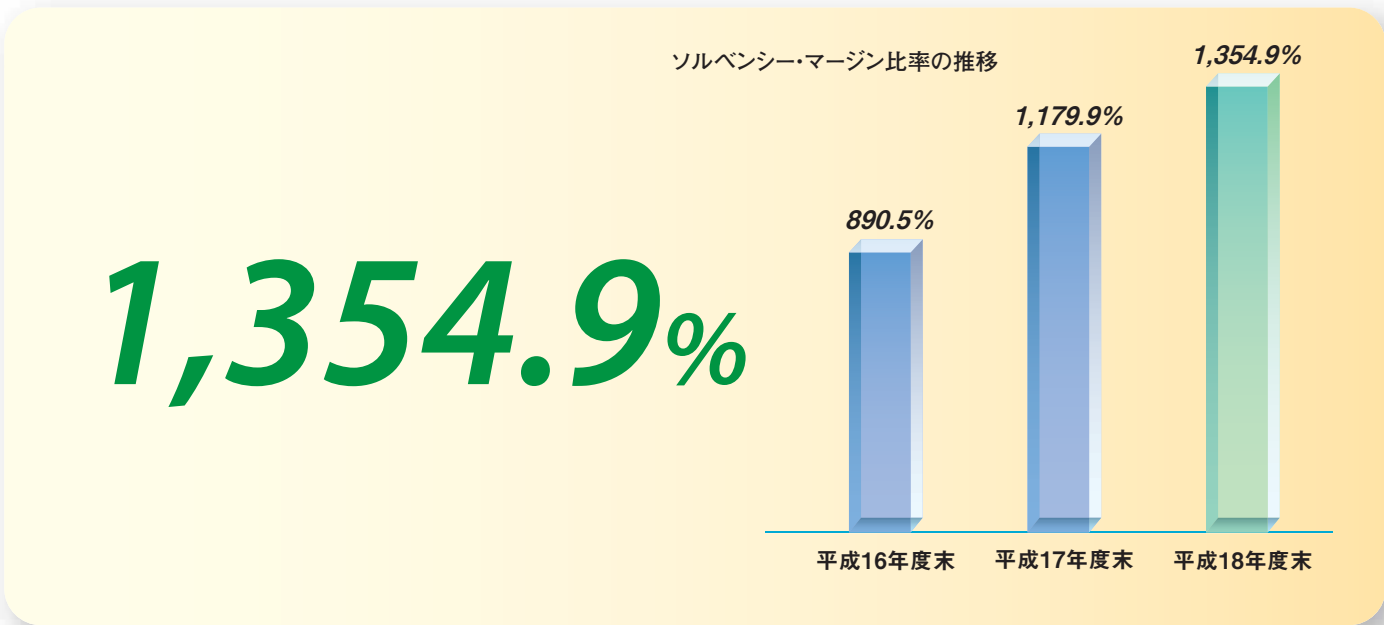


# 資産・財務内容において、引き続きトップレベルの健全性を堅持し、お客さまに安心をお届けします。

## ソルベンシー・マージン比率

予測を超えたリスクにも十分対応できる支払余力を確保しています。

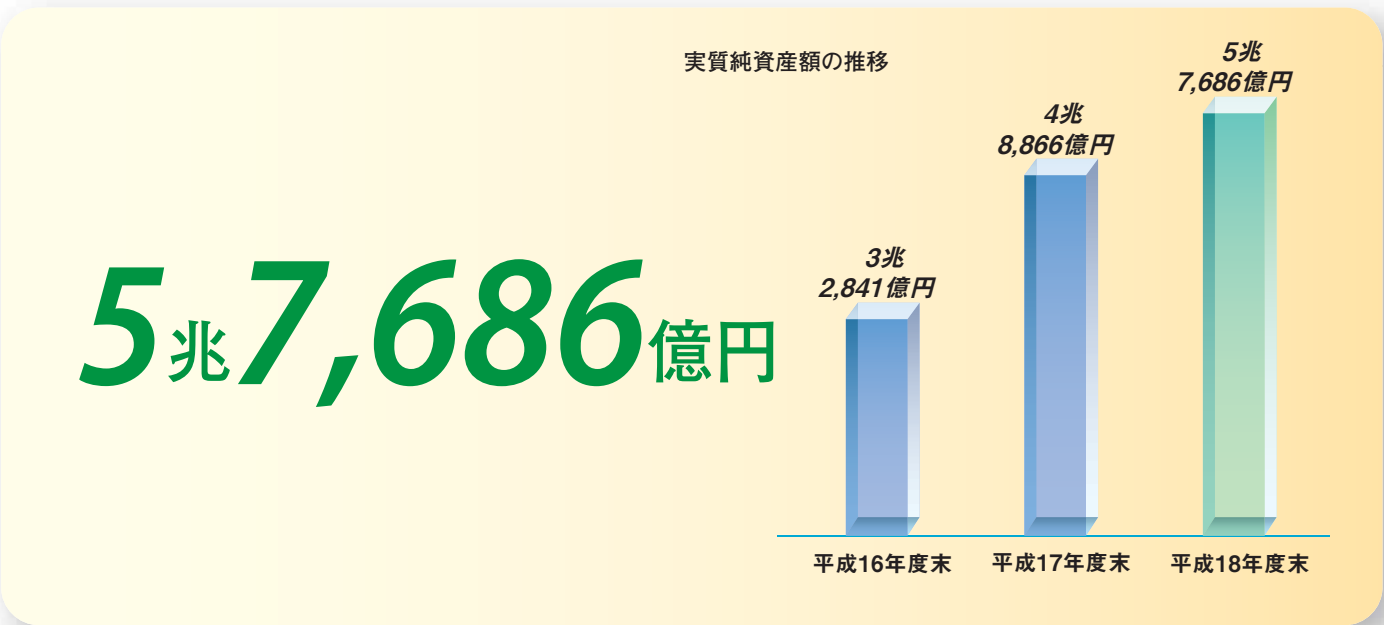
ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株価の暴落など、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。この数値が200%を下回った場合は、監督当局による業務改善命令等の対象となります。平成18年度末のソルベンシー・マージン比率は、1,354.9%と十分な支払余力を確保しています。



## 実質純資産額

健全な経営を維持していくための十分な純資産額を備えています。

実質純資産額とは、有価証券や不動産等を時価評価した資産から、ご契約にかかわる各種負債等を差し引いたものであり、保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の一つです。平成18年度末の実質純資産額は、5兆7,686億円で、一般勘定資産に対する比率は22.2%と十分な水準を確保しています。



## 含み損益 (一般勘定資産全体)

バランスのとれた堅実な資産内容で、十分な企業体力を堅持しています。

含み損益とは、保有している資産の時価と帳簿価額(取得価額)との差額を指し、保険会社の企業体力を表わすものの一つです。平成18年度末は、一般勘定資産全体で3兆7,584億円の含み益を確保しています。



## リスク管理債権

厳正な自己査定を実施し、資産内容の健全性を堅持しています。

リスク管理債権とは、貸付金のうち、返済状況が正常でない債権を「破綻先債権」「延滞債権」「3か月以上延滞債権」「貸付条件緩和債権」の4つに区分した総称です。平成18年度末のリスク管理債権額は456億円、貸付残高に対する比率は0.71%と、きわめて低い水準を堅持しています。

